袖ケ浦市市制施行30周年記念事業

令和3年度特別展

かつて見た袖ケ浦の海

―海から見つめる袖ケ浦の100年―

ようこそ！「生き物」と「なりわい」からせまる袖ケ浦の海の世界へ

令和３年１０月２日(土)～令和３年１２月１２日(日)

開館時間：午前９時～午後５時

月曜休館・11月3日(祝),11月23日(祝)は開館,翌日休館

入場無料

関連イベント開催！ 詳細はHP等でお知らせします。

★展示解説会(10/9・11/14)　★干潟観察会(10/17)

★講演会(11/20)　★海苔すき体験(1月予定)

袖ケ浦市郷土博物館

〒299-0255　千葉県袖ケ浦市下新田1133

TEL. 0438-63-0811　https://www.city.sodegaura.lg.jp/soshiki/hakubutsukan/

船の科学館 海の学び ミュージアムサポート　Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION　海と日本 PROJECT

でかけましょう、
袖ケ浦の海をめぐる旅へ…

袖ケ浦市の海は現在、海岸一帯に京葉工業地帯が広がっています。これは戦後の埋め立てにより形作られたものですが、埋め立て以前には海苔養殖などの漁業が盛んに行われていました。そしてそれを支えていたのが、様々な生き物を育む広大な干潟で、人々は海の自然と隣り合わせの生活をしていたのです。

本展では、かつて存在した干潟の生き物や生態系について探るほか、当時使われていた漁具や漁業協同組合の記録などを展示します。「生き物」と漁業をはじめとした人々の「なりわい」の２つの視点から、袖ケ浦の海の過去から現在までの100年間の歴史を辿る旅にでかけましょう。

①長浦から奈良輪の航空写真（昭和30年代）

②中袖工場地帯の航空写真（平成初期，長浦）

③

④

⑤

③盤洲（ばんず）干潟のコメツキガニ

④養殖牡蛎（かき）の陸揚げ
（昭和40年，奈良輪）

⑤パッチン網を用いたクルマエビ漁

アクセス

■電車をご利用の場合
JR内房線「袖ケ浦駅」から日東バス「平川行政センター・のぞみのバスターミナル行」『袖ケ浦公園』下車 徒歩8分
※土日祝日は「東京ドイツ村行」

■お車をご利用の場合
東関東自動車道館山線　姉崎袖ケ浦ICから約20分
アクアライン連絡道　袖ケ浦ICから約15分

関連イベント

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、延期または中止とさせていただく場合がございます。

①展示解説会
■10月9日（土）午前11時、午後1時30分～
■11月14日（日）午前11時、午後1時30分～　■定員各10名（申込先着順）

②観察会「盤洲（ばんず）干潟を知ろう！干潟の生き物観察会」
■10月17日（日）午前9時～午前11時30分　■定員20名（申込先着順）
■講師　盤洲干潟をまもる会　■臨時駐車場集合（盤洲干潟までは徒歩移動）

③講演会『第161回袖ケ浦学「東京湾の過去・現在・未来 ―いきものと漁業の歩み― 」』
■11月20日（土）午後1時30分～午後3時
■定員60名（申込先着順）
■講師　鳥羽 光晴 氏（東京海洋大学客員教授）
■長浦おかのうえ図書館視聴覚室

④海苔すき体験会
■令和4年1月開催予定　詳細未定

各イベントはお電話もしくは窓口での事前申込が必要です。
参加費や集合場所等詳細はHP等でお知らせします。